

最後の大会を存分に走って 第50回くりやまマラソン大会

今年で最後の大会となった、第50回くりやまマラソン大会が9月1日に行われ、約430人の参加者がスポーツセンター前に集まりました。開会式では「はるばる賞」などの授与式があり、東京都や高知県など遠方の参加者に佐々木学町長が町産のメ

ロンを贈呈しました。参加者は栗山小学校前をスタートし、ゴールのスポーツセンターに着くまで、それぞれ3km・6km・10kmのコースを、景色を楽しみながら走りました。また、閉会式前には抽選会が行われ、町産のトマトやジャガイモなどが送られました。



① 惜しまれながらラストランがスタート



② 遠方の参加者へ町産のメロンを贈呈

災害時に備え防災意識を高める 総合防災訓練

町主催の総合防災訓練が9月8日、朝日ふれあい公園で行われ、町民162人が参加しました。今回の訓練は大雨を想定して、午前8時に避難を知らせる緊急速報メールを町民に配信。避難完了後、参加者は土のうづくりや救護訓練などを体験し、防災意識を高めました。また、自衛

隊の災害救助資機材の展示や町赤十字奉仕団による炊き出し訓練ではアルファ米などの試食が行われました。訓練に参加した、栗山小学校4年生の太田遥真くんは「非常食が珍しかった。災害の起こったときは、自分の命を守るように気をつけたい」と話していました。



救護訓練のようす

栗山で「水」を学ぶ 東京学芸大学

東京学芸大学の学生11人が8月29日から2日間、雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウスに滞在し「水辺の学びデザインプロジェクト（Wasit）」の活動を行いました。学生たちは、ハサンベツ里山再生地区見学の後、NPO法人雨煙別学校理事の高橋慎さんを講師に招き「栗山の

水辺環境づくりの取り組み」をテーマに講演を聞きました。講演の中で高橋さんは「河川の自然再生は、近隣市町の理解を得ながら行っています。人とホタル、サケなどの生き物や自然が共生していくことが大切です」と呼びかけ、学生たちは水環境の学びを深めていました。

進化した自動車を試乗体験 栗山自動車学校

高齢者ドライバーなどキなどの性能を実際に体験してもらうサポカーの試乗講習会が、9月13日に栗山自動車学校で開かれ、町老人クラブ連合会員など42人が参加しました。小澤茂晴校長は「免許を取得して50年以上の方もいます。自動車は進化していますので、

ぜひ体感してください」とあいさつ。その後、教習コースに移動し、実際に乗車して自動ブレーキを体験しました。試乗体験に参加した新谷信典さん（75歳）は「高齢者ドライバーの交通事故が問題になっているが、最新の自動ブレーキなどの性能で事故防止に繋がれば」と話していました。



自動ブレーキ体験する高齢者ドライバー

雨煙別川をサケが戻る川に 河川清掃&いきもの捕獲・観察会

栗山青年会議所が主催する「2019 河川清掃サケの還る川クリーン作戦&いきもの捕獲・観察会」が9月14日に行われ、サケが産卵できるきれいな川にするために雨煙別川の川辺に捨てられたゴミを拾い集めました。河川清掃を終えると、雨煙別川に生息する魚を観察する「いきも

の観察会」が行われ、流域生態研究所の妹尾優二所長から、魚の特徴などの説明を受けました。岩見沢市から参加した高田悠哉さん（8歳）は「川には空き缶などのゴミがあった。網で魚をいっぱい捕まえることができて楽しかった。また来年も参加してみたい」と笑顔で話していました。



山本秀一会長から防犯カメラの目録を受け取る佐々木学町長

子どもたちの安全・安心を守って 栗山ロータリークラブ

栗山ロータリークラブが、町内の各小中学校に防犯カメラを寄贈し、その贈呈式が9月5日に役場内で行われました。栗山ロータリークラブ創立50周年を迎えるにあたり、児童生徒の安全・安心を図る目的で実現しました。贈呈式では、佐々木学町長から、栗山ロータリークラブへ寄

贈に対する感謝状の授与も行われました。山本秀一会長は「防犯カメラを設置することで、犯罪の抑止力につながります」と話し、栗山中学校の太田康彦校長は「職員室が2階にあるので、早い段階で異変に気づくことができ、本当に感謝しています」と話していました。



① 参加者全員で雨煙別川の魚と一緒に記念撮影



② 妹尾所長が魚の特徴などを説明